令和７年度　普及活動成果集

次代を担う「人財」が育つ都市型農業をめざして!

福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター

令和８年３月

女性農業者機械研修

びわ生産塾

北九州市新農業者育成研修講義

新品目（ケイトウ）
導入支援

採種大麦ほ場
刈り取り前調査

キャベツ
ドローン防除試験

は　じ　め　に

北九州地域の農業者並びに関係機関の皆様には、平素より県農政の推進、普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

普及指導センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画」が目指す方向のもと、市町、ＪＡ等の関係機関・団体で構成する地域協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーの方々や部会役員等の農家リーダーの皆様との連携・協力により普及活動を展開しています。

農業を取り巻く情勢は、混沌とする国際情勢、関税強化、「令和の米騒動」と非常に不安定の中、生産現場では、年々激しくなる気象変動、資材価格の高騰、高齢化に伴う労働力の不足等と厳しくなっております。

普及指導センターでは、これら諸課題の解決を図るため、「次代を担う人財が育つ都市型農業をめざして！」を普及活動のスローガンに掲げ、２つのプロジェクト課題と６つの部門別課題に取り組んできました。

この成果集は、園芸産地の振興や担い手の育成、大豆の振興、水稲・麦種子の安定生産等の普及活動事例のほか、主な表彰や高温対策等についても紹介させていただきました。農業者の皆様や関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後とも普及指導センターは、現場の声にお応えしながら「担い手づくり、産地づくり」を活動の中心に据え、職員一同、一丸となって地域の課題解決に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和８年３月

八幡農林事務所 北九州普及指導センター
センター長　　小松　滝人

目　次

１　令和７年　気象及び作物の生育概況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

２　成　果

（１）遠賀・中間地域の担い手の経営力強化と園芸産地の振興・・・・・・・・・・　2

（２）若松地域における園芸産地の維持・強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

（３）新規就農者の経営安定と多様な担い手育成・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

（４）「ふくよかまる」等多様な転作作物の振興と種子の安定生産・・・・・・・　7

（５）次代に向けた野菜産地の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

（６）飼料価格高騰に対応した優良家畜の生産安定支援・・・・・・・・・・・・・　9

３　主な展示ほの結果の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

４　トピックス

・女性農業者の活躍推進に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

・県北ブロック農業青年技術交換大会を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・福岡県麦作共励会で植本利雄氏が福岡県知事賞を受賞・・・・・・・・・・・・　13

・重本善十氏がみどり認定を受ける・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・全国に「赤しそドリンク」をＰＲ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

・広がる若松潮風®ブランド　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・大葉春菊「うまかろーま®」出荷開始！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

・「高倉びわ生産塾」を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・夏期の施設内温度上昇抑制に向けた遮光資材の検証・・・・・・・・・・・・・　16

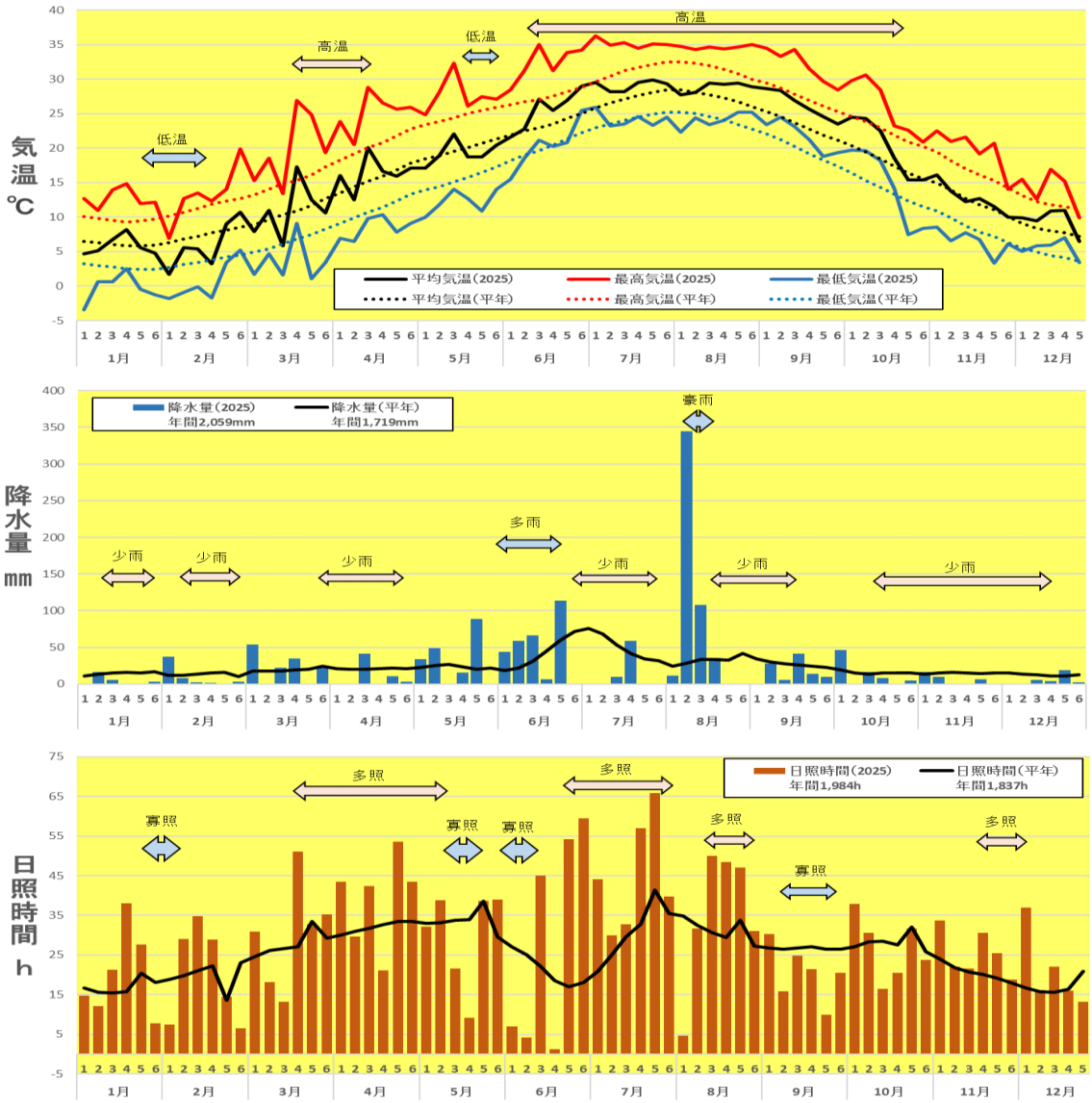
・鳥獣被害防止対策研修会を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

５　現地活動情報・活動体制

・令和７年度　現地活動情報一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

・令和７年度　普及指導センターの活動体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

1　令和７年　気象及び作物の生育概況



・春先の低温の影響で、びわの生育遅れが目立ち果実肥大も悪かった。
・６月下旬から７月は梅雨明けが早かったこともあり、水稲は、生育期間を通して日照時間を確保できたことから生育は順調であった。
・梅雨明けが早かったことから、大豆の播種は順調であった。その後８月上旬の大雨による冠水等が一部ほ場であったものの生育は順調であった。
・７月から９月は高温で推移し、適度に降雨もあったことから、水稲の収量は平年より多かった。品質は、高温の影響による白未熟粒や充実不足粒の発生が多く、平年に比べ低下した。
・８月の豪雨により、一部地域で水稲、大豆ほ場での冠水やトマトハウス、ナス、スイカほ場への浸水被害が見られた。
・９月中旬以降の連続した降雨により、キャベツ等では 10 日ほど定植が遅れた。
・９月中旬以降に気温が下がらなかったことから、普通作型のイチゴの花芽分化が遅れ 10 月上旬まで定植が続いた。

２　成果

遠賀・中間地域の担い手の経営力強化と園芸産地の振興

１　背景

遠賀・中間地域では、高齢化による産地規模の縮小や担い手不足、集落営農組織の機能低下などが懸念されています。このため、普及指導センターでは関係機関と連携し、いちごやびわの新たな担い手育成、新品目導入等による担い手の経営力強化、集落営農組織の連携体制構築や農地集積の推進に取り組んでいます。

令和７年度は、下記の内容に重点的に取り組みました。

２　取組内容

（１）新たな担い手による産地振興

いちごの新たな担い手育成のため、新規就農希望者に対する研修を関係機関と連携して実施するとともに、経営計画の策定支援を行ったほか、新規就農者の定着に向けた栽培技術指導を行いました。

びわの新たな担い手育成のため、昨年度に引き続き、高倉びわ活性化協議会主催のびわ生産塾の開催を支援するとともに、塾生が早期にびわ栽培を開始できるよう、就農園地の整備や既存園地の情報提供を行いました。

いちご新規就農希望者支援

新規就農に向け整備したびわ園地

（２）重点支援対象の経営力強化

重点支援対象として選定した担い手に対し、栽培体系に合った品目提案を行った他、肥料コスト低減に向けた緑肥（クリムゾンクローバー）の導入を支援しました。

また、労働力募集アプリ等を活用した短期雇用の導入やドローン防除受託組織の活用を支援することにより、労働時間の削減に取り組みました。

（３）土地利用型農業の振興

水田農業の永続的な担い手モデルを育成するため、遠賀町北部４地区の関係集落間で、会議の開催や個別大規模農家への聞き取り、アンケート調査を進め、４地区の連携について検討を進めました。

また、重点支援対象として選定した担い手に対し、雇用導入支援や後継者育成支援を通じて、地域計画に基づく担い手への農地の集積・集約化を支援しました。

遠賀町北部４地区の連携に向けた
個別大規模農家への聞き取り

３　成果

（１）新たな担い手による産地振興

いちごは、新規就農者への支援の結果、新たに１名が栽培を開始し、１名が令和８年度の就農に向け、研修を開始しました。

びわ生産塾では、新たに４名が加入したほか、令和６年度から受講する塾生のうち６名が新規でびわ栽培を開始、うち４名がＪＡ北九びわ部会に加入しました。

（２）重点支援対象の経営力強化

重点支援対象経営体のうち、１戸がキャベツ、１戸がブロッコリーを新たに導入しました。

また、新たな雇用労働力の確保のため、１戸が１日農業バイトを利用した短期雇用を開始したほか、２戸がドローン防除組織の活用を開始しました。

新たに栽培開始したキャベツほ場

（３）土地利用型農業の振興

遠賀町北部４地区での協議の結果、４地区の農業生産を集約する法人を設立することを目指すことで合意ができました。

また、雇用導入支援や後継者育成支援の結果、重点支援対象経営体のうち、５経営体で農地の集約が進みました。

遠賀町北部４地区の連携協議

若松地域における園芸産地の維持・強化

１　背景

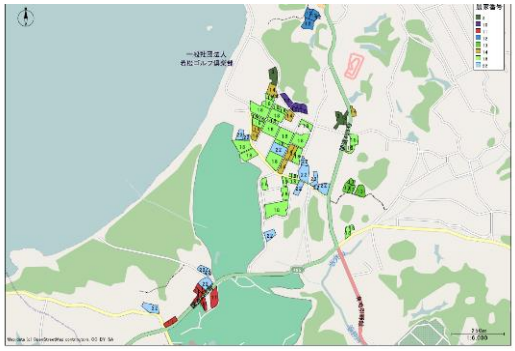
若松地域はキャベツ、ブロッコリー、スイカ等露地野菜による大規模な農業経営が行われています。しかし近年、高齢化や価格の低迷による影響からキャベツ、ブロッコリーの産地規模が縮小しており、ＪＡが行った部会アンケートの結果では、10年後には更なる縮小が予想されています。

そこで、普及指導センターでは、令和７年度から重点プロジェクトとして、関係機関と連携し、産地規模の維持・強化に向けた取り組みを実施しました。

２　取組内容

（１）農地の流動化による生産基盤の維持

関係機関で構成される北九州市西部地域農業振興協議会担い手プロジェクトと連携し、キャベツ班、ブロッコリー班の生産者から作付の現況及び将来計画の聞き取りを行いました。また、生産者の意向調査を基に産地分析を行うとともに、農地集積や労働力確保など具体的な検討を進めました。



農地利用状況を地図で明確化

（２）安定出荷によるブランド力の強化

生産者が減少する中、生産量増加と省力化に向け目標単収（キャベツ５t、ブロッコリー１t）を設定し、新技術導入の実証試験（品種、ドローン防除、環境負荷低減）を実施して効果の検証を行うとともに生産者へ技術情報の提供を行いました。

ドローンによる防除作業の様子

（３）若手農業者の経営力強化

関係機関と連携して、農業経営の発展を目指すキャベツ・ブロッコリーの若手生産者４名を対象に若松地域農業青年アカデミー（全３回）を開催しました。アカデミーでは受講者が自ら現状を把握し、将来目標を明確にするためのビジネスプランの作成支援を行いました。第１回及び第２回では、作成の目的や方法、既作成者の実践状況について学び、第３回の発表会では、協議会メンバーを前に受講者がそれぞれ作成したビジネスプランを基に課題解決に向けた取り組みや、今後のビジョンなどの発表を行いました。

また、近年、被害が拡大して地域の課題となっている鳥獣害の対策として、11 月に研修会を開催し、農業者等約 50 名が参加しました。研修会では、長岡技術科学大学の山本准教授からイノシシ、ヒヨドリなど各鳥獣の特徴や罠の設置方法など、具体的な事例を基にした解説や、関係機関から狩猟免許試験等についての情報提供を行いました。

若松地域農業青年アカデミー発表会の様子

鳥獣被害の様子

３　成果

（１） 農地の流動化による生産基盤の維持

生産者の規模拡大や縮小の意向を把握し、その情報を基にキャベツ・ブロッコリー毎に農地利用計画を作成しました。作成した農地利用計画は地図上で「見える化」し、関係者間で情報共有しました。

（２）安定出荷によるブランド力の強化

定植直後からチョウ目害虫による被害が多く、定植期の防除遅れが被害拡大の要因となっていたため、キャベツのドローンによる農薬散布試験を行い、害虫の抑制効果や労力軽減効果等を確認しました。その結果を部会会議で生産者に周知し、新たな技術導入に繋げました。

（３）若手農業者の経営力強化

キャベツ・ブロッコリーの若手生産者４名が、自らの経営ビジョンに沿ったビジネスプランを新たに作成しました。また、ビジネスプランを既に作成している生産者２名に対しては、技術戦略や法人化等、目標達成に向けた伴走支援を行い、うち１名が目標を達成しました。

新規就農者の経営安定と多様な担い手育成

１　背景

農業従事者が年々減少する中、地域農業の維持・発展のためには、新規就農者の確保・定着支援に加え、地域の中核となる農業者の経営発展や女性農業者の経営参画支援など、多様な担い手の育成が喫緊の課題となっています。

そこで、対象に応じた様々な支援を行い、地域農業の担い手育成を行いました。

２　取組内容

（１）新規就農者の確保及び経営確立

就農希望者との面談により、就農に向けた課題を整理するとともに、技術習得や就農計画の策定を支援しました。

また、新規就農者に対し、基礎技術や経営管理、先輩農業者との意見交換など、資質向上を目的とした研修会を開催し、新規就農者の経営確立を図りました。

営農基礎講座

（２）経営体育成支援

支援対象の９経営体に対して、品目の見直しや技術改善の提案、スムーズな経営継承に向けた専門家派遣など、カウンセリングにより明らかにした課題に応じた支援を実施し、経営目標の達成を目指しました。

（３）女性農業者の経営参画促進

女性農業者が主体的に経営参画することを促進するため、経営及び機械に関する研修会を開催しました。

経営研修では、市場流通や女性農村アドバイザーのほ場見学を実施し販売戦略や経営改善について学び、農業機械研修ではトラクターの基礎的な操作について学びました。

女性農業者向け研修会

３　成果

新規就農者に対し技術面や経営面での支援を行った結果、就農５年以内の新規就農者のうち２名が就農計画の所得目標を達成しました。

女性農業者への経営支援を実施し、新たに１名の女性認定農業者を育成しました。

「ふくよかまる」等多様な転作作物の振興と種子の安定生産

１　背景

ＪＡ北九管内において、大豆の単収は県平均を下回っており、米粉用米も目標単収に達していない生産者がいます。これらの転作作物は土地利用型農家の収益の柱であることから、安定的に所得を確保するためには単収向上が強く求められています。

また、ＪＡ北九楠橋採種部会では各経営体において世代交代が進んでおり、採種生産技術の継承および底上げが課題となっています。

そこで、転作作物の単収向上と種子生産農家の栽培技術向上を目的に支援しました。

２　取組内容

（１）転作作物の振興

大豆「ふくよかまる」の品種特性を活かした『適期播種』を指導し、現地巡回や管理情報により雑草対策や病害虫防除を呼びかけました。さらに、難防除雑草多発ほ場においては、除草剤と部分浅耕播種の組合せによる体系防除の展示ほを設置しました。

米粉用米は、講習会や現地巡回の実施により管理の徹底を図るとともに、新たな需要拡大に向けて、有望品種の実証試験を実施しました。

体系防除の展示ほ

（２）種子の安定生産

ＪＡ北九楠橋採種部会に対して、若手生産者を中心に、種子の全量合格に向けて、水稲および大麦の現地互評会や栽培講習会を実施し、土壌診断結果に基づく施肥や土づくり、適期防除を重点的に支援しました。

採種栽培講習会の様子

３　成果

大豆「ふくよかまる」は適期播種により生育量が確保できたことから、平均単収は昨年度に比べて増加しました。難防除雑草対策の展示ほでは、雑草の減少による増収効果を確認できました。米粉用米では、目標単収に達した農家数は昨年度に比べて増加しました。

水稲および大麦の種子は、採種部会全体の技術が向上し、適切な栽培管理が行われたことで、全量合格を達成できました。

次代に向けた野菜産地の育成

１　背景

ＪＡ北九東部地区野菜部会では、生産者の高齢化等により生産量が横ばいとなっていますが、一方で、若手の新規就農者も一定数定着しています。ＪＡ北九いちご部会では、積極的な新規就農者の受け入れによって、毎年１～２名がイチゴ生産を開始しています。

令和７年３月には野菜集出荷場（北九州市小倉南区）が再整備され、野菜出荷量の向上が見込まれています。

このような状況を踏まえ、地域の担い手となる新規就農者の経営安定のため、生産力及び技術力の向上に向けた支援を行いました。

２　取組内容

（１）特産野菜の推進及び新産地の育成

集出荷場を活用する新たな品目としてのエダマメの産地育成に向け、支援を行いました。収穫適期が短いエダマメの安定出荷を目指し、労力に応じた播種時期の分散、追肥、雑草対策等の管理情報を発信しました。

エダマメ出荷箱への表示

（２）イチゴの次代を担う人財の育成

目標単収 3.6ｔ/10a 達成のため、現地巡回や栽培情報の提供を行いました。また、ハウス内の環境データの把握のため、環境測定機器の試験導入を行いました。

イチゴほ場に設置した環境測定機器

３　成果

エダマメは、新たに集荷場にて脱莢機や選別機が整備され、栽培面積は、1.9ha から 4.2ha へと拡大しました。

イチゴは、環境測定機器の試験導入によって、温度やCO_2濃度といったハウス内環境データに基づく管理に対する意識が向上し、目標単収 3.6ｔ/10a を達成した支援対象者は 20%（10 名中２名）となりました。今後も測定データを活用した栽培管理の勉強会等の技術支援を予定しています。

飼料価格高騰に対応した優良家畜の生産安定支援

１　背景

小倉牛は歴史が古く、地元では認知度が高い黒毛和牛のブランドですが、飼料価格や肥育素牛価格の高騰等により、生産者の経営環境が悪化しています。

そこで、地域産まれの安価な子牛の生産頭数を増やし、飼養管理の改善を図ることで、小倉牛の経営安定に向けた支援に取り組みました。

また、自給飼料を確保するため、専用品種利用や土壌改良等の支援に取り組みました。

２　取組内容

地域産まれの子牛の発育状況を把握するため、定期的に発育調査を行いました。また、肥育素牛の生産に係る経費や肥育状況を調べることで、安価な子牛の生産や枝肉成績の向上に取り組みました。

自給飼料は、冬作の専用品種（イタリアンライグラス「きららワセ」）の導入や混播（イタリアンライグラスとクローバー）、夏作（スーダン、テフグラス等）の栽培技術を支援することで、生産量や品質の確保を図りました。

３　成果

産まれも育ちも北九州市の小倉牛の割合が、令和元年度の８頭から３か年平均で 42 頭に増加しました。また、小倉牛の認定割合が、令和元年度の 93%から３か年平均で 98%に上昇し、販売価格が上がり収入が増加しました。

自給飼料は、冬作の専用品種や混播に取り組むことで、作物中の粗蛋白質等を増やし、収量を確保することができました。また、夏作に取り組むことで、質の高い牧草を生産することができました。

基本登録審査

夏作の栽培

３　主な展示ほの結果の概要

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
水稲	岡垣町	［奨励品種の現地調査］ 奨励品種「ちくし 105 号」は、「夢つくし」に比べ、いもち病の発生が少なく、収量も同等以上であった。
水稲	岡垣町 若松区	［基肥一発肥料の検討］ 夢つくし栽培において、緩効性肥料「J コート 2000 中稲」は、慣行肥料「J コート 2000」と比べて、収量と品質はやや優れる傾向であった。
大豆	遠賀町	［難防除雑草対策（アサガオ類）の検討］ 播種前のトレファノサイド乳剤の土壌混和および部分浅耕一工程播種、播種後から生育期の除草剤散布による体系防除により、アサガオ類への高い抑制効果および大豆の収量品質の向上効果が認められた。
キャベツ	若松区	［ドローン防除による定植期の省力化の検討］ ドローン防除の効果と作業時間の調査を行い、一定の防除効果が得られ、10a 当たり約 10 分の省力が可能となった。
キャベツ ブロッコリー	若松区	［再生リン肥料を用いた化学肥料削減の検討］ 再生リン肥料「e・green」3 種（基肥、追肥、基肥一発）を用いて、効果を検証し、基肥と追肥の「e・green」は慣行肥料「若松野菜（基肥）」「NK2 号（追肥）」と同等の施肥効果が認められた。
キャベツ ブロッコリー	若松区	［緑肥の検討］ イネ科の「ソルゴー」、マメ科の「クロタラリア」を用いて緑肥の効果を検証し、一定の効果が認められた。
キャベツ	若松区	［チョウ目害虫に対する殺虫剤の効果の検討］ 新規薬剤「ヨーバルターボフロアブル」は、慣行薬剤「ベネビア OD」と同等の効果が認められた。

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
ブロッコリー	若松区	[黒すす病に対する殺菌剤の効果の検討] 新規薬剤「ケンジャフロアブル」は、慣行薬剤「パレード20フロアブル」と同等の効果が認められた。
ほうれんそう	小倉南区	[ハスモンヨトウに対する殺虫剤の効果の検討] 新規薬剤「ベリマークSC」は、慣行薬剤「カスケード乳剤」と同等の効果が認められた。
ほうれんそう	小倉南区	[べと病に対する殺菌剤の効果の検討] 新規薬剤「フェスティバル水和剤」は、慣行薬剤「コサイド3000」と同等の効果が認められた。
大葉春菊	小倉南区	[高温対策としてＢＳ資材等活用の検討] 育苗時の培土混合（EFポリマー、イネニカ）やBS資材（スキーポン・アグリ、鉄培力土）施用による生育への影響を調査し、一定の効果が認められた。
花き	北九州市	[シクラメン高温対策に向けた新タイプの遮光資材導入の検討] 遮熱機能を有した遮光資材「ネオシェード清冷」により、シクラメンの生育に必要な照度を確保しつつ、ハウス内温度の上昇を抑制する効果が認められた。

４　トピックス

女性農業者の活躍推進に向けて
～女性農村アドバイザー表彰・認定式を開催～

福岡県では、地域の活性化や、農業経営及び農家生活の向上に取り組む優れた女性農業者を福岡県女性農村アドバイザーとして認定しています。

令和８年２月６日に、令和７年度福岡県女性農村アドバイザー表彰・認定式が開催され、北九州普及指導センター管内からは、岡垣町の大石洋子氏が任期満了で退任され、新たに岡垣町の丸内和子氏が認定されました。

令和８年度の管内の女性農村アドバイザーは北九州市２名、遠賀町１名、岡垣町１名の体制となりました。

当センターでは、今後も女性農業者の活動を支援し、男女共同参画の推進および農業・農村の活性化を支援していきます。

表彰・認定式の様子

県北ブロック農業青年技術交換大会を開催
～営農意欲の向上と若手農業者同士の交流を図る～

令和７年 11 月 14 日に、飯塚、田川、京築、北九州地域の農業青年による県北ブロック技術交換大会を開催しました。

本行事は、若手農業者により組織される県北地域の「農業青年クラブ」が集まり、技術面での自己研鑽を図るとともに、クラブ員同士の交流を目的として毎年開催しています。

当日はクラブ員 15 名が参加し、技術競技及びスポーツ交流を行いました。

技術競技では、農業全般の知識問題 30 問に挑戦し、その正答数を競いました。

続いてスポーツ交流も実施し、クラブ員同士の親睦を深めました。

当センターでは、今後も生産者及び関係機関とともに、次世代の担い手となる青年農業者の活動を支援していきます。

技術交換大会の様子

福岡県麦作共励会で植本利雄氏が福岡県知事賞を受賞
～適切な管理による高収量・高品質が評価される～

令和７年度福岡県麦作共励会において、中間市の植本利雄氏が福岡県知事賞を受賞されました。

同氏は、水稲、麦、大豆を主とした認定農業者で、令和７年産麦類の栽培面積は、大麦「はるか二条」580a でした。

麦栽培の特色としては、周囲溝、弾丸暗渠などの排水対策により、適期播種を可能とし、土壌改良資材による土づくりに力を入れています。また、栽培中は、踏圧や土入れなど基本技術を励行し、生育の悪い部分は追肥を施用など、きめ細やかな管理を行うことで、地域の平均を大きく上回る単収となりました。

また、地域計画においては、中心経営体として位置づけられており、これらのことが評価され、今回の受賞となりました。

福岡県知事賞を受賞した植本氏（写真左）

重本善十氏がみどり認定を受ける
～管内初となる認定～

中間市の重本善十氏が管内で初めて「みどり認定」を取得しました。重本氏は水稲を栽培。ふくおかエコ農産物認証にも 1.7ha 取り組んでおり、堆肥を投入しています。また、化学肥料や農薬を最小限に抑え、水管理や生物多様性にも配慮した持続可能な水稲栽培を行っています。この認定は、重本氏の長年の取り組みの努力が実った証であり、地域の環境負荷低減の取組のモデルケースとして、中間市産の農産物の信頼性向上、地域活性化に貢献すると期待されています。

※「みどり認定」とは、みどりの食料システム法に基づき、化学肥料・農薬の使用低減などに取り組む農業者を認定する制度です。

重本氏の
ふくおかエコ農産物認証米

全国に「赤しそドリンク」をPR
～「日本農業新聞一村逸品大賞」前期優秀賞受賞～

令和７年８月 20 日、21 日に東京ビッグサイトで開催された「第 18 回アグリフード EXPO 東京」において、JA 北九赤しそ部会がブースを出展し、赤しそドリンクの宣伝活動を行いました。イベントではドリンクの試飲を２日間で約 500 杯提供し、試飲された多くのバイヤーの方々に大変好評でした。

赤しそドリンクは、遠賀町および芦屋町産の「芳香赤しそ」と遠賀町産の「モチの木はちみつ」を使用しており、地元産の原料にこだわって生産されています。全国各地の優れた農産加工品を表彰する「第 22 回日本農業新聞一村逸品大賞」（令和７年９月９日開催）では、その豊かな香りとすっきりとした甘みが評価され、前期優秀賞を受賞しました。

PR 活動や今回の受賞を機に、今後もさらなる需要の拡大が期待されます。

イベントブースの様子

広がる若松潮風®ブランド
～ブランドの更なる発展へ！新たに２品目が追加～

ＪＡ北九若松そさい部会は、若松潮風®ブランド野菜として「若松潮風®キャベツ」「若松潮風®プレミアム（大玉スイカ）」「若松クイーン（小玉スイカ）」を販売しています。ブランドの更なる発展を目指すため、「ブロッコリー」「ミニトマト」の２品目を新たな若松潮風®ブランドとして追加しました。追加された２品目は出荷箱が一新され、ブランドの魅力と価値をより一層高めています。普及指導センターでは、若松潮風®ブランドの高品質で安定した生産のために、支援を行い、ブランドの発展に貢献していきます。

新たな若松潮風®ブランド
（左：ブロッコリー 右：ミニトマト）

大葉春菊「うまかろーま®」出荷開始！
～令和４年度からの取組が実を結ぶ～

ＪＡ北九大葉春菊出荷組合が生産する大葉春菊は、令和６年に「うまかろーま®」の商標を取得して新しい名称で出荷を開始しました。

普及指導センターでは、関係機関とともにブランド力強化を重点プロジェクト（令和４年度～６年度）として位置付け、出荷組合の活動を支援してきました。

令和７年度も、出荷先の拡大やイベント、マスコミを通じたＰＲ活動等、積極的に知名度向上に取り組んでいます。

普及指導センターは今後も関係機関と連携し、高温対策などの安定生産に向けた技術支援を通して、「うまかろーま®」のブランド力強化に取り組んでいきます。

パッケージでブランドＰＲ

「高倉びわ生産塾」を開催
～びわ産地の生き残りをかけた担い手確保の取り組み～

びわ部会、ＪＡ、岡垣町及び普及指導センターで構成する高倉びわ活性化協議会は、令和７年７月 23 日に「高倉びわ生産塾」の研修園地において、令和７年度最初となる生産塾を開催し、10 名の生産塾生が参加しました。

生産塾は、岡垣町で 120 年以上生産されている「高倉びわ」の担い手確保のために開催しているもので、塾生に対し、びわの主要管理を教えながら、栽培園地の斡旋等を行い、将来のびわの生産者の育成を目指しています。

この取り組みにより、今年度は４名がびわの新規栽培者として、びわ部会に加入し栽培を開始しました。

今後も、普及指導センターは、「高倉びわ」の産地の維持・発展のために関係機関と連携して支援を行っていきます。

説明を受ける生産塾生

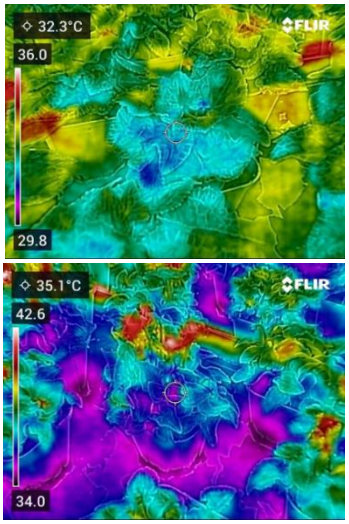
夏期の施設内温度上昇抑制に向けた遮光資材の検証
～シクラメンの開花遅延対策～

近年、夏期から秋期にかけての高温の影響により、シクラメンの開花が遅延し、収益性が低下しています。

そこで、令和７年７月上旬から 10 月上旬にかけて、従来の遮光ネットに熱線を吸収する機能を有した、新タイプの遮光資材を用いて、シクラメンの開花遅延防止効果を検証しました。

今回の検証では、本資材による開花遅延防止効果については判然としませんでしたが、シクラメンの生育に必要な照度を確保しつつ、ハウス内温度と作物表面温度の上昇を抑制できました。

今後も引き続き、シクラメンの開花遅延対策技術の検証を進めていきたいと思います。



温度上昇抑制の様子
上：新遮光資材区　下：従来の遮光資材

［シクラメン高温対策に向けた新タイプの遮光資材導入の検討］
遮熱機能を有した遮光資材「ネオシェード清冷」により、シクラメンの生育に必要な照度を確保しつつ、ハウス内温度の上昇を抑制する効果が認められた。

鳥獣被害防止対策研修会を開催
～狩猟から法律まで、多角的に鳥獣対策を考える～

若松地域では、近年、鳥獣被害が増加しており、北九州市の令和６年度農林産物の被害額は約６千万円に上りました。このため、西部地域農業振興協議会（ＪＡ、市、県で構成）では 11 月に農業者および関係機関を対象に鳥獣被害防止対策研修会を開催しました。

研修会では、長岡技術科学大学の山本准教授からイノシシ・アライグマ・ヒヨドリの生態や実践的な被害対策についての講演が行われました。また、北九州市から市の鳥獣施策、八幡農林事務所から狩猟免許試験についての情報提供が行われました。参加者からは多くの質問・意見が出され、関心の高さが伺えました。

普及指導センターでは、今後も関係機関と連携して地域の農産物の鳥獣被害対策を支援していきます。

講演等に聞き入る参加者の様子

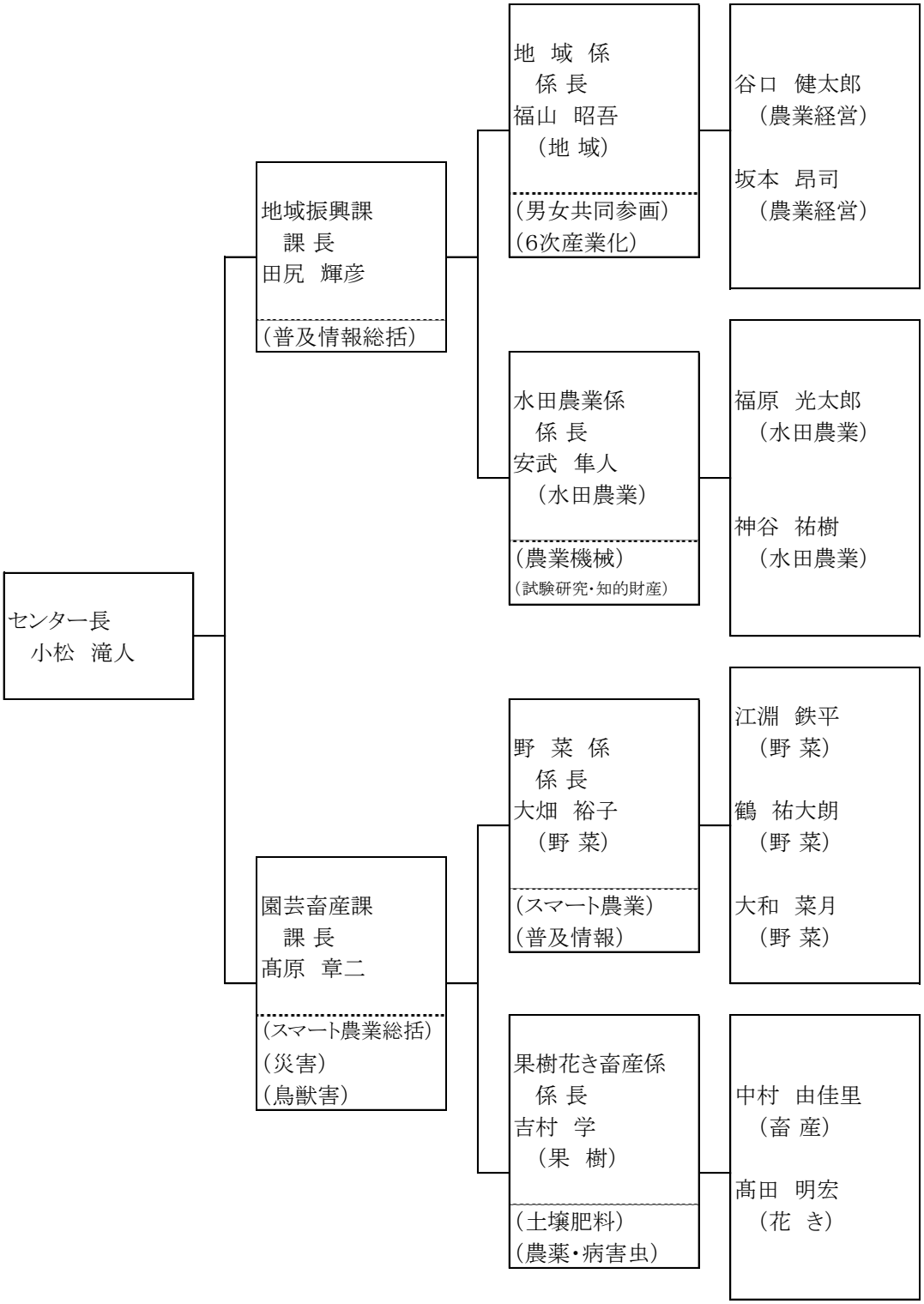
５　現地活動情報・活動体制

令和７年度　現地活動情報一覧

№.	表題（タイトル）	係名	公開月
1	赤い絨毯からのめぐみ 水稲緑肥クリムソンクローバによる環境保全型農業	水田農業係	５月
2	若松潮風®キャベツ過去最高クラスの販売金額 過酷な気象を乗り越えた生産者の努力と技術	野菜係	６月
3	高品質な麦の生産に向けて 麦の収穫最盛期です	水田農業係	６月
4	「水巻のでかにんにく」出荷開始！ 収量・品質の向上を目指して	野菜係	６月
5	赤しその出荷が最盛期へ 遠賀地域の夏を彩る風物詩	野菜係	６月
6	「高倉びわ生産塾」を開催 びわ産地の生き残りをかけた担い手確保の取り組み	果樹花き畜産係	７月
7	さんさんクラブ北九州が総会・研修会を開催 農産物のブランディングについて考える	地域係	７月
8	営農基礎講座を開催 農薬の適正使用や土壌肥料について学ぶ	地域係	８月
9	麦作部会播種前講習会を開催 「土づくり」、「排水対策」、「適期播種」の徹底を	水田農業係	10 月
10	キャベツ畑にドローンが舞う 定植期の課題を乗り越える、ドローン防除の効果を検証	野菜係	11 月
11	大葉春菊「うまかろーま®」出荷開始！ 高品質安定出荷に向けて目合わせ会開催	野菜係	12 月
12	農産物の流通や女性農村アドバイザーの経営について学ぶ 女性農業者研修会を開催	地域係	12 月
13	鳥獣被害防止対策研修会を開催 狩猟から法律まで、多角的に鳥獣対策を考える	野菜係	12 月
14	若松地域農業青年アカデミーを開催 今後の農業経営について考える	地域係	12 月
15	イチゴ出荷目合わせ会を開催 「あまおう」の出荷本格化に向けて	野菜係	１月
16	先輩農家の経営について学ぶ 営農基礎講座（視察研修）を開催	地域係	２月
17	北九州市養鶏協会と小倉牛流通促進協議会が 北九州市農林水産まつりに出展	果樹花き畜産係	２月
18	北九州管内で３名が新たにホオズキを導入 花き産地の発展に向けて	果樹花き畜産係	２月
19	麦現地互評会を開催 生育状況に応じた適切な管理で収量・品質向上を	水田農業係	２月

https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/
上記の福岡県ホームページでご覧いただけます。

令和７年度　普及指導センターの活動体制



各係の下段は窓口業務

福岡県行政資料			
分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703305	7	0001

福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター
〒807-0831
福岡県北九州市八幡西区則松3丁目7－1（八幡総合庁舎　2階）
TEL 093－601－8855
FAX 093－601－8869
E-mail：kitakyu-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
URL：https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/